Window版Contrast EOPインストールガイド

はじめに

本書では、Contrastエンタープライズオンプレミス版(EOP)をWindows Serverにインストールする手順について説明します。Windows Server 2012 R2で、デフォルトのオプションを指定した一般的なインストール例を使用します。標準的なインストールの一例として参考にしてください。

デフォルト以外のオプションを指定したり、既存のTomcatやMySQLを使用する場合は、オンラインドキュメント(https://docs.contrastsecurity.jp/index.html?lang=ja)を参照し、ご利用の環境に合わせてインストールを行ってください。本ドキュメントはオプションとしての扱いとなり、オフィシャルな情報に関してはオンラインドキュメントの以下インストールガイドを参照ください。
(https://docs.contrastsecurity.jp/ja/install-contrast.html)

また、本書で指定するファイル名やイメージは、インストール時のバージョンや環境により異なる場合があります。

インストール前の準備

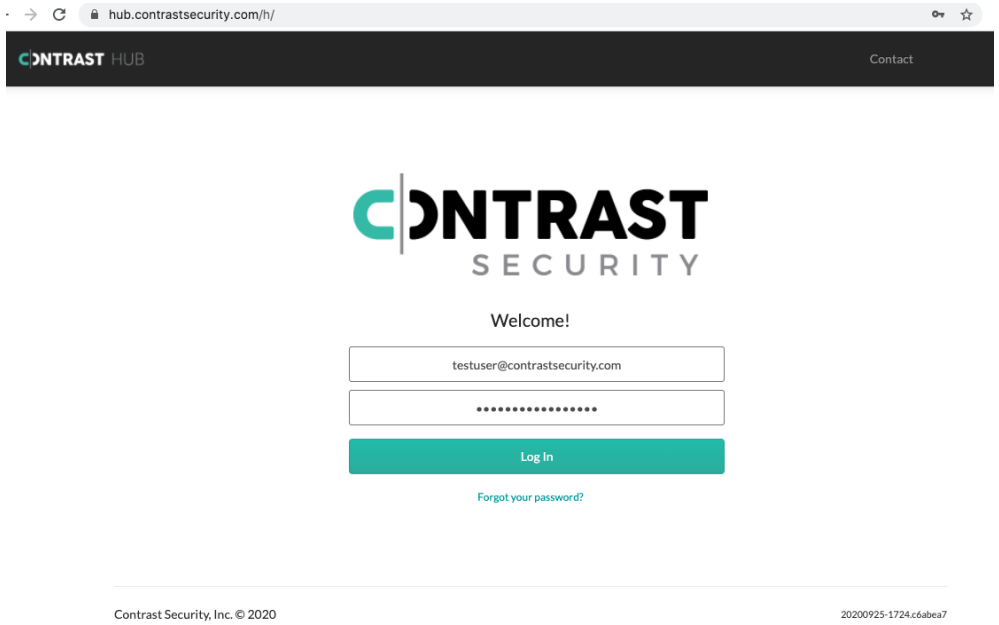
システム要件の確認

Contrast EOPのインストールを開始する前に、「Contrast EOP導入ガイド」を参照して、インストールする環境が要件を満たしているか確認してください。

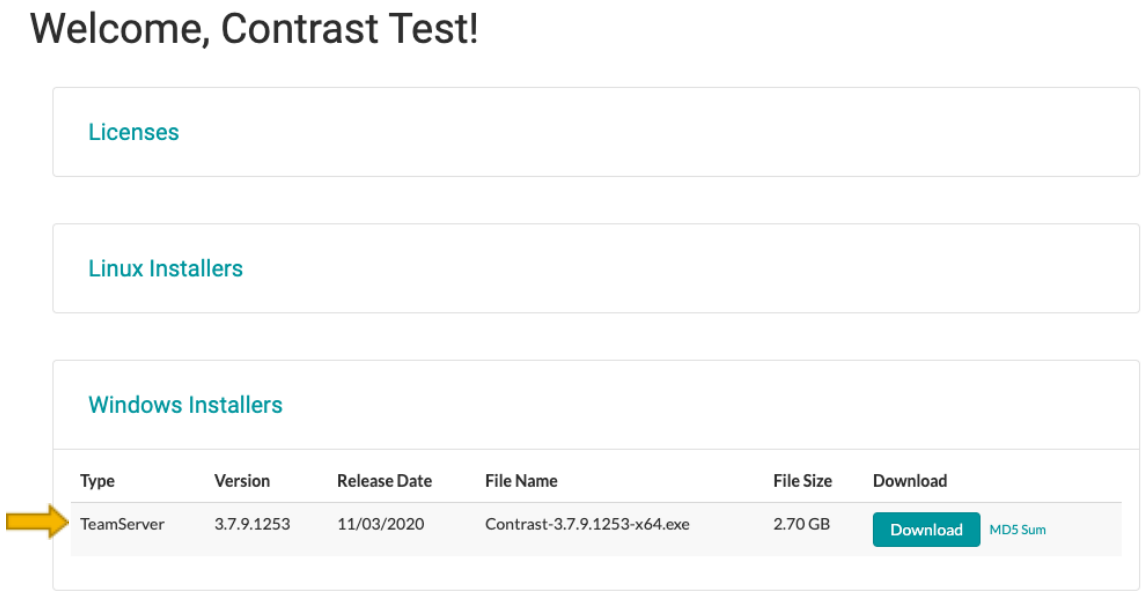
Contrast EOPインストーラのダウンロード

1. 最初に、Contrast Hub(ハブ)でインストーラをダウンロードします。Contrast Hubの以下のURLにアクセスし、Contrast Securityからメールで通知済みのアカウントでログインします:
   https://hub.contrastsecurity.com/

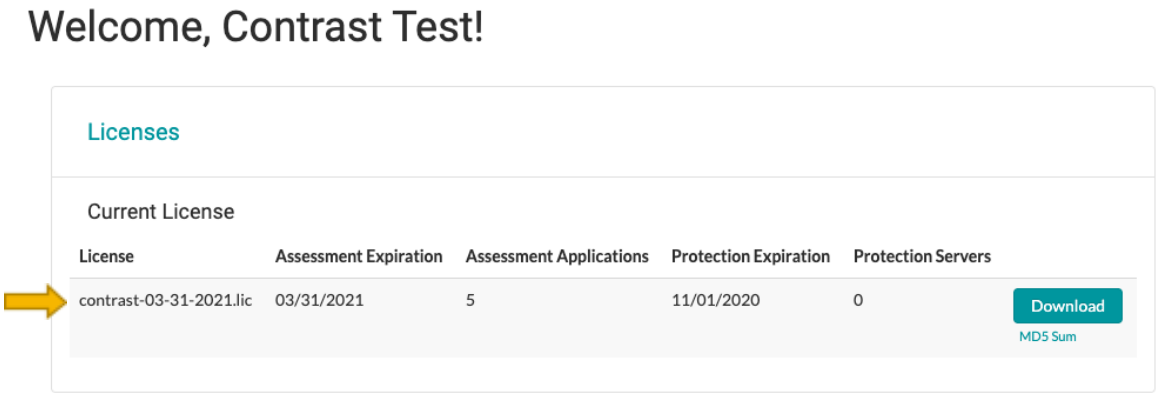
   Contrast Hubにログインするアカウントが不明な場合は、弊社サポート(support@contrastsecurity.com)までご連絡ください。



2. Contrast Hubにログインしたら、インストーラとライセンスをダウンロードします。本書では、Windows用のインストーラを使用しますので、**Windows Installers**をクリックし、**TeamServer**の**Download**をクリックします。



3. 次にライセンスファイルをダウンロードします。**Licenses**を選択し、**Download**をクリックします。



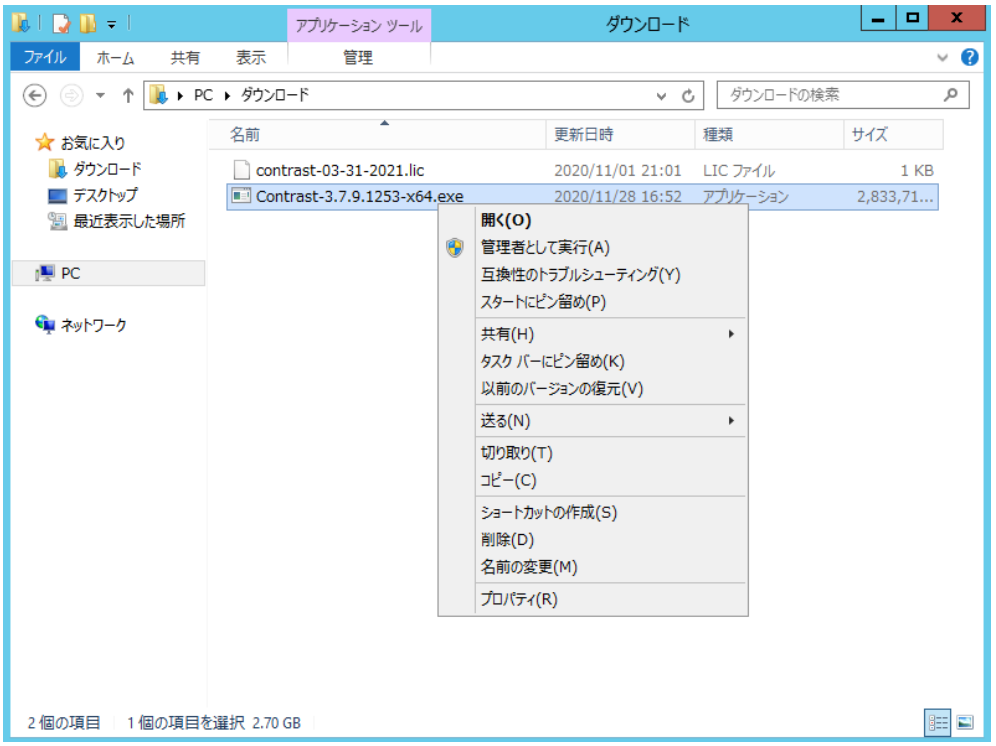
必須の共有ライブラリ

Windows環境でContrast EOPを実行するには、MySQLを実行するための要件として「Visual2015-2022のVisual C++再頒布可能パッケージ」が必要です。下記よりダウンロードし、インストールしてください：

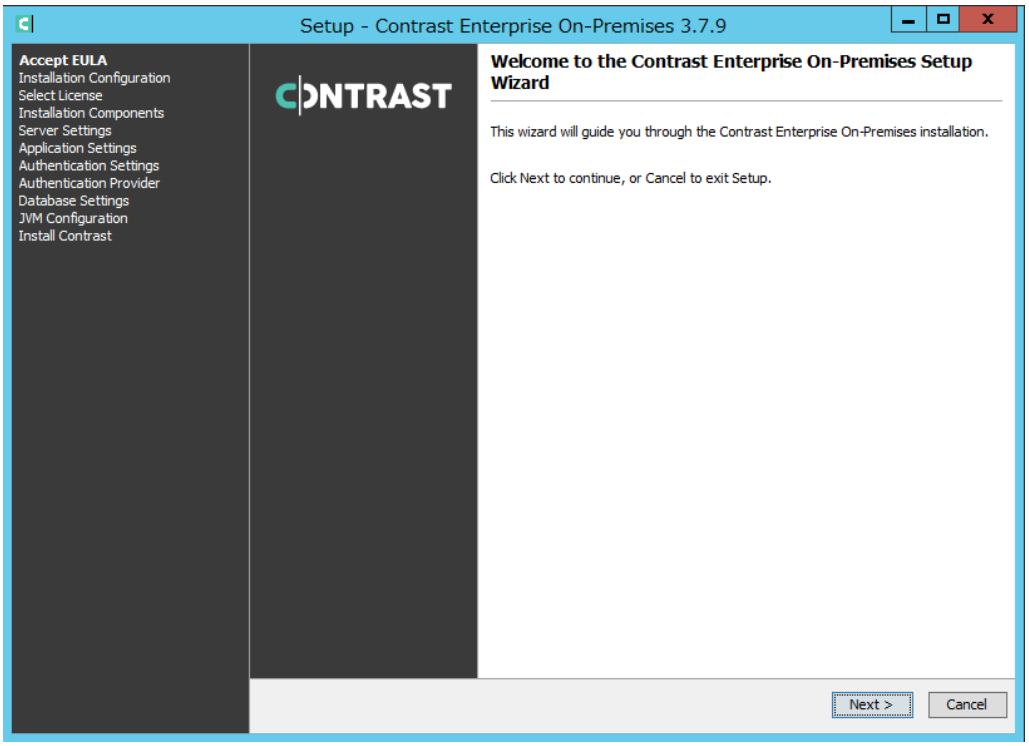
https://learn.microsoft.com/en-US/cpp/windows/latest-supported-vc-redist?view=msvc-170

インストールの実行

1. Contrast EOPのインストーラは管理者権限のあるユーザとして実行する必要があります。インストーラを選択し、右クリックメニューより管理者として実行を選択します。

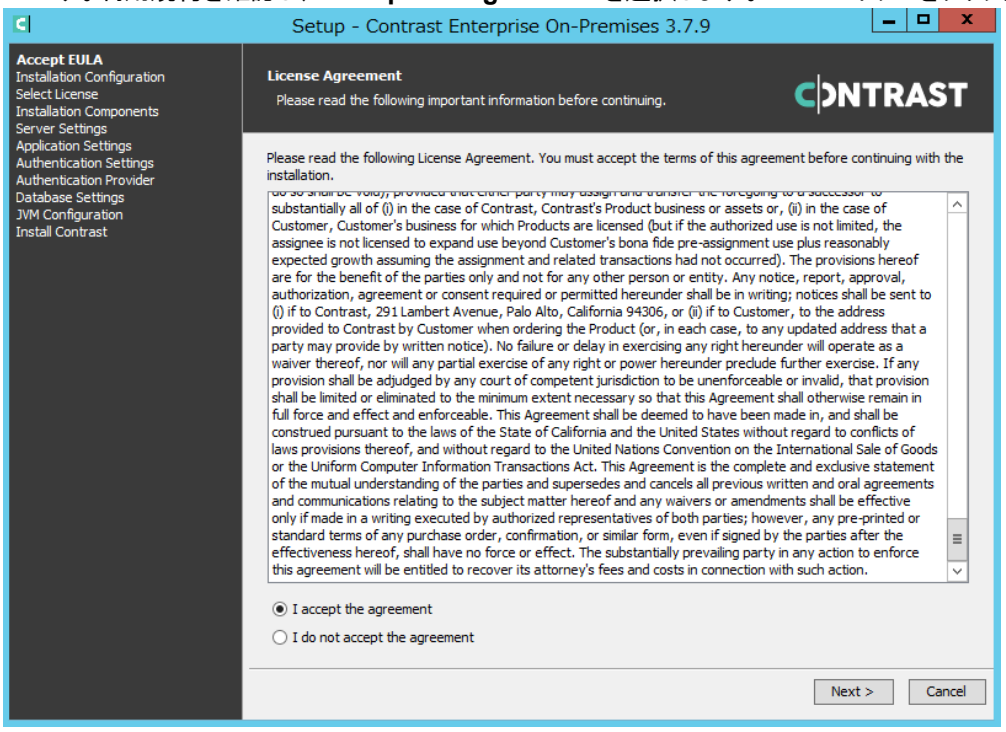


以下のようにインストール画面が表示されます。**Next >**ボタンをクリックします。



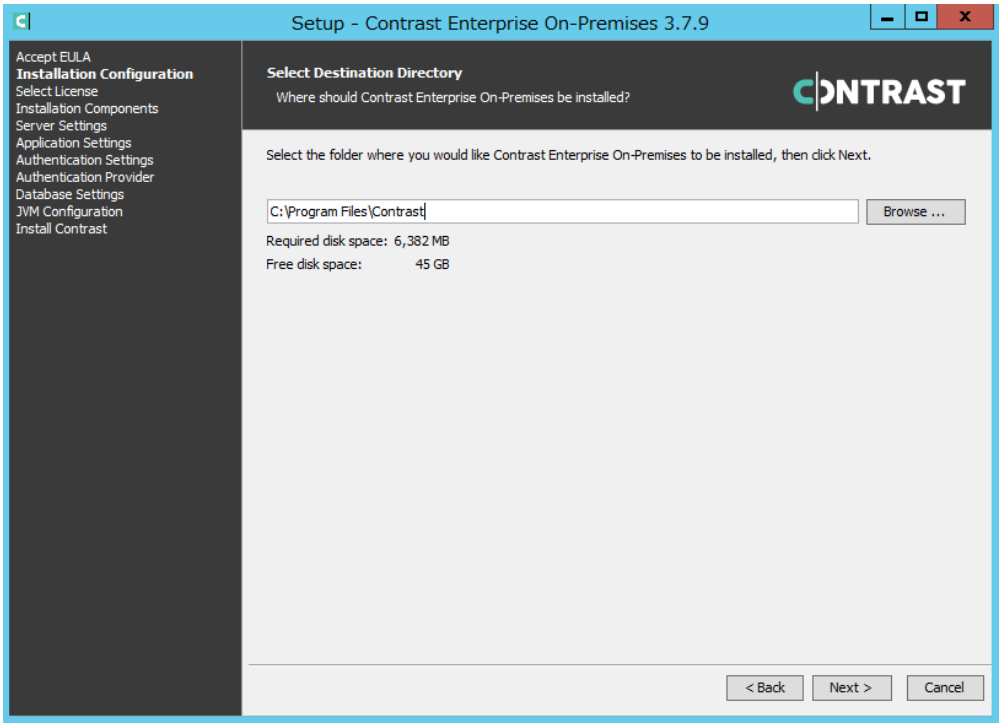

Contrast
SECURITY

2. Contrast EOPの利用規約(CONTRAST ON-PREMISES END USER LICENSE AGREEMENT)が表示されます。利用規約を確認し、**I accept the agreement**を選択します。**Next >**ボタンをクリックします。

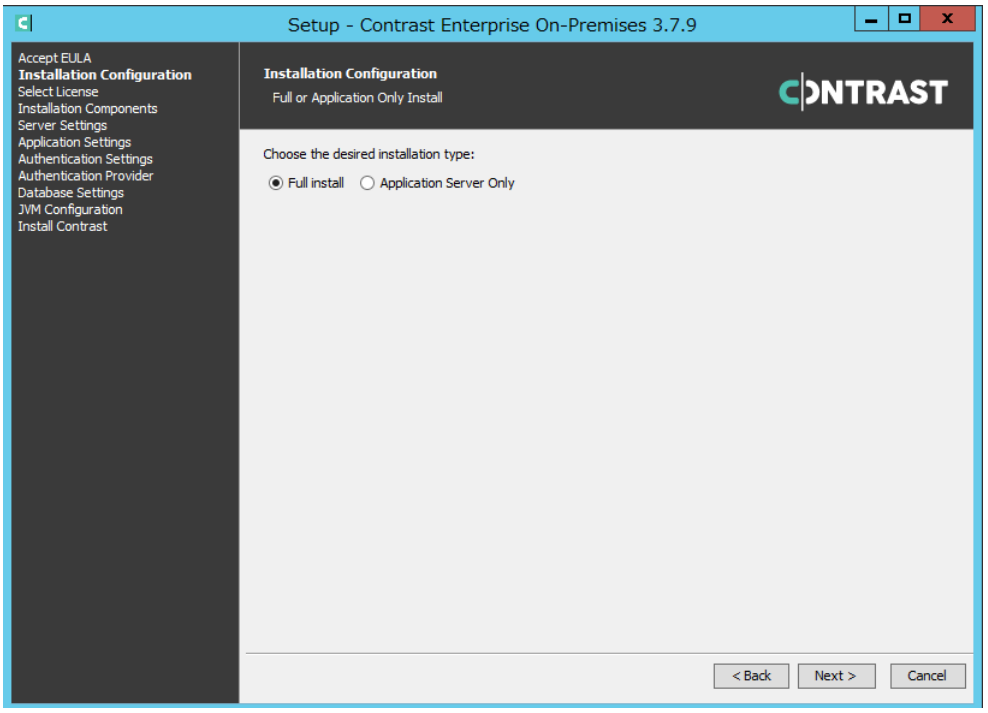


3. 次にContrast EOPをどのディレクトリ にインストールするかを指定します。本書では、表示されたデフォルトの推奨ディレクトリ (ここでは、C:¥Program Files¥Contrast)を使用します。

必要なディスク容量が、**Required disk space:**に表示されますので、十分な領域があるかを確認したら、**Next >** ボタンをクリックします。



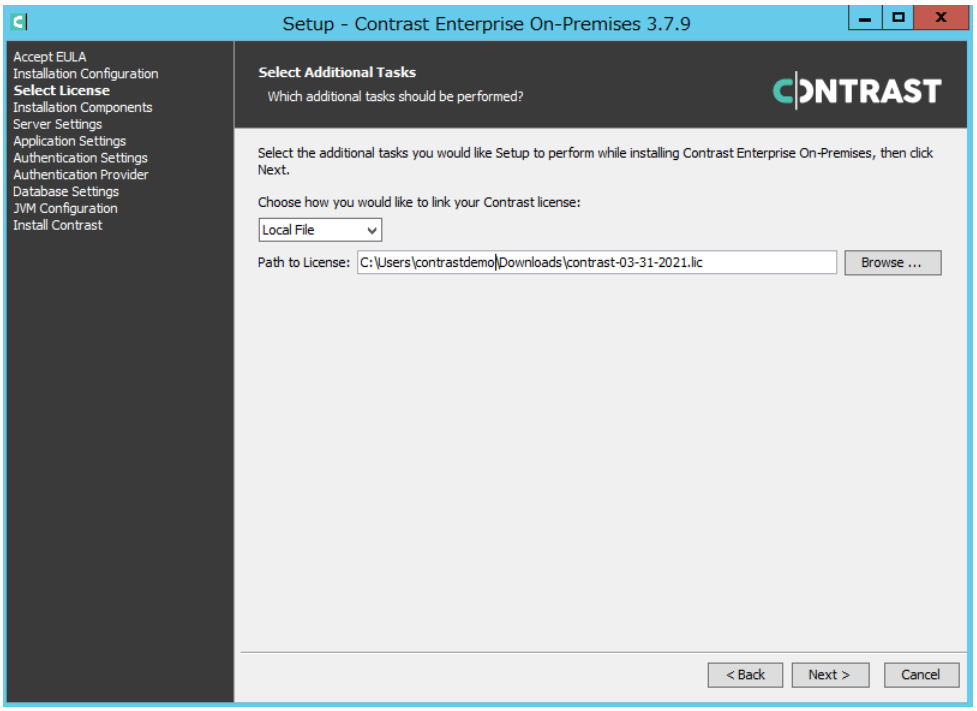
4. フルインストールかアプリケーションサーバのみのインストールのいずれかを選択します。本書では既存のTomcatは使用せずに、Contrast EOPにバンドルされたものをインストールしますので、**Full install**を選択します。そのまま、**Next >** ボタンをクリックします。



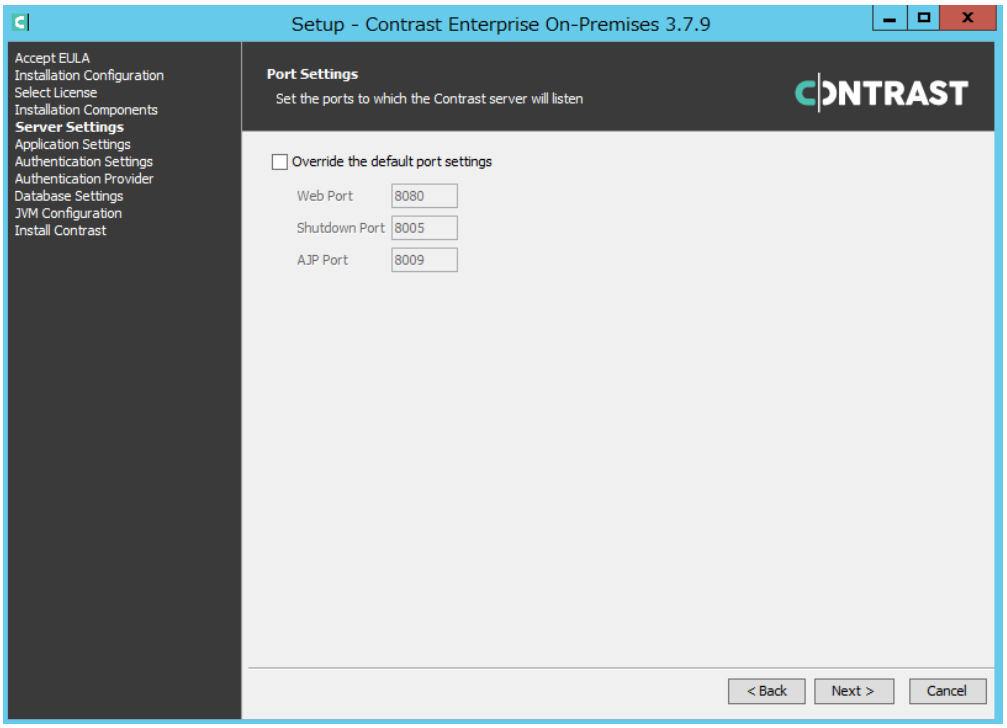
5. ライセンスファイルの場所を指定します。

本書ではライセンスファイルは、サーバのローカルディレクトリ にダウンロード済みですので、**Choose how you would like to link your Contrast license**:のドロップダウンは、**Local File**を選択したままにします。**Path to License** にパスを直接入力するか、**Browse**ボタンをクリックして、ライセンスファイルのパスを指定します (例: C:¥Users¥contrastdemo¥Downloads¥contrast-03-31-2-21.lic)。

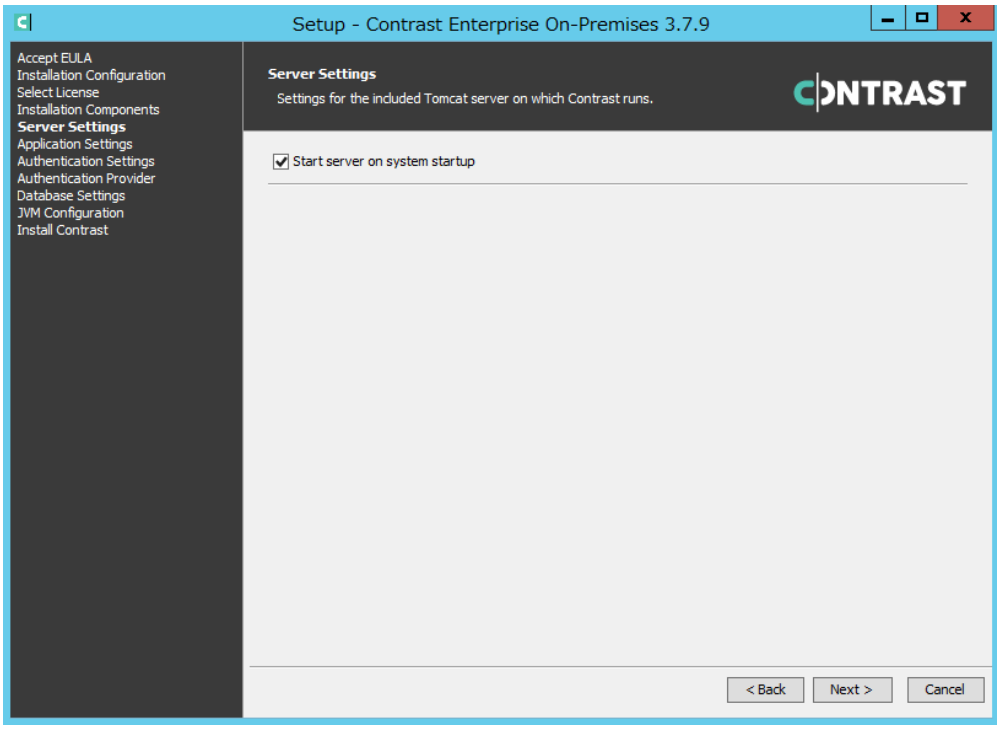
Next > ボタンをクリックして、次に進みます。所有するライセンスの情報が表示されたら、OKをクリックします。



6. Contrast EOPで使用するポートを指定します。
デフォルトでは、HTTP接続に8080、シャットダウンポートに8005、AJPポートに8009が指定されます。デフォルト以外のポートを使用する場合は、**Override the default port settings**を選択して変更します。本書では、デフォルトの値を使用しますので、そのまま**Next >**ボタンをクリックします。



7. Contrast EOPを実行するTomcatサーバについて、システム起動時にサーバを起動するかどうか指定します。
本書では、システム起動時にサービスを起動するため、**Start server on system startup**のチェックボックスを選択したままにし、**Next >**ボタンをクリックします。

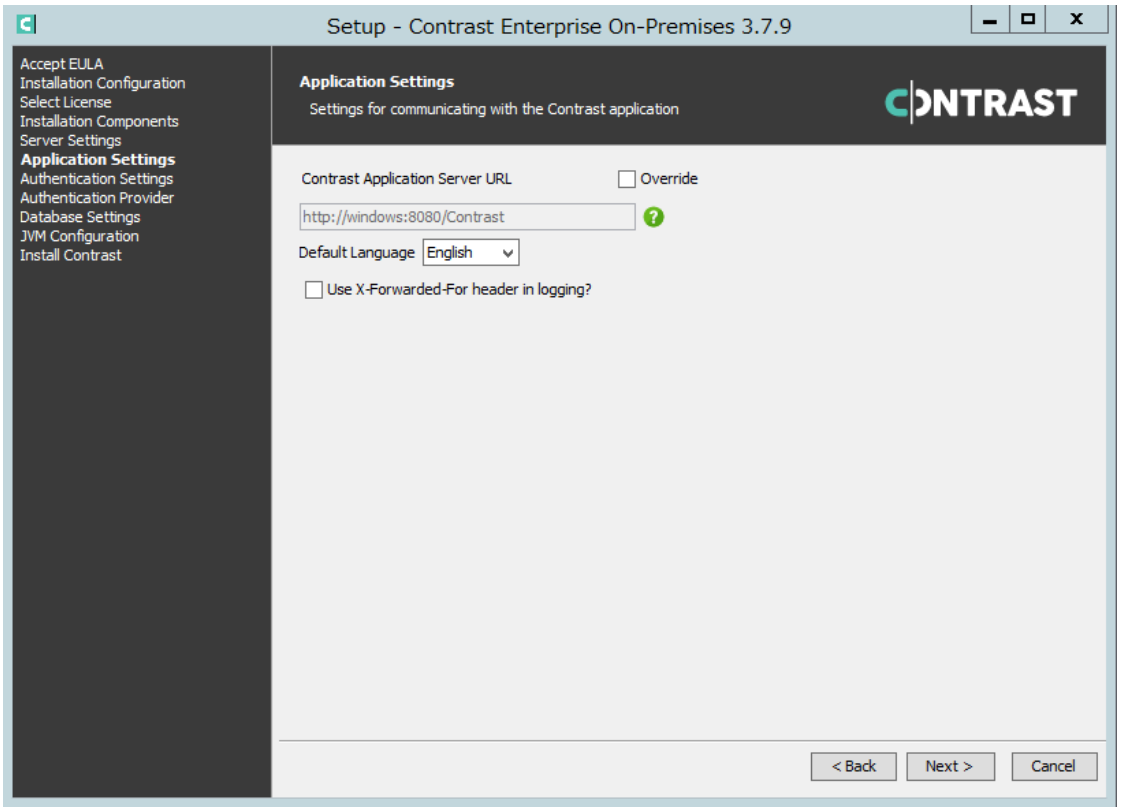


8. Contrast EOPのアプリケーションサーバの設定をします。

Contrast Application Server URL
Contrast EOPに接続するすべてのエージェントが通信に使用するURLを設定します。通常、Contrast EOPを実行しているマシンのホスト名とリスニングポートが使用されます。
表示されているURLで問題が無ければそのままにします。URLを変更する場合は、**Override**のチェックボックスにチェックを入れURLを編集します。本書では、表示されているURLをそのまま使用します。

Default Language
Contrast EOPで利用する言語を選択します。英語とスペイン語の2つの言語から選択します。
日本語も利用可能ですが、日本語は現在ベータ版のためここでは選択オプションとして表示されません。日本語を利用する場合、Contrast EOPのインストールが完了した後に管理画面から日本語オプションを指定することができます。ここでは英語を選択し、**English**のままにしておきます。

Use X-Forwarded-For header in logging?
ロードバランサを使用する場合、XFF(X-Forwarded-For)ヘッダーを使用して、クライアントの送信元IPアドレスを記録することができます。必要であれば、このオプションのチェックボックスにチェックをつけます。通常これは必須ではありませんので、そのままとし**Next >**ボタンをクリックします。


Setup - Contrast Enterprise On-Premises 3.7.9
Accept EULA
Installation Configuration
Select License
Installation Components
Server Settings
Application Settings
Authentication Settings
Authentication Provider
Database Settings
JVM Configuration
Install Contrast
Application Settings
Settings for communicating with the Contrast application
CONTRAST
Contrast Application Server URL
Override
http://windows:8080/Contrast
Default Language
English
Use X-Forwarded-For header in logging?
< Back
Next >
Cancel

9. MySQLのインストールについて選択および設定を行います。

使用するMySQLについて、以下のいずれかを選択します。
Default : Contrast EOPにバンドルされているMySQLをインストールして使用する
Distributed: 既存のデータベースを使用する
本書では、Contrast EOPにバンドルされたコンポーネントを使用しますので、デフォルト(**Default**)を選択したままにします。

Port
MySQLのポートを指定します。本書では、デフォルトポートの**13306**をそのまま使用します。

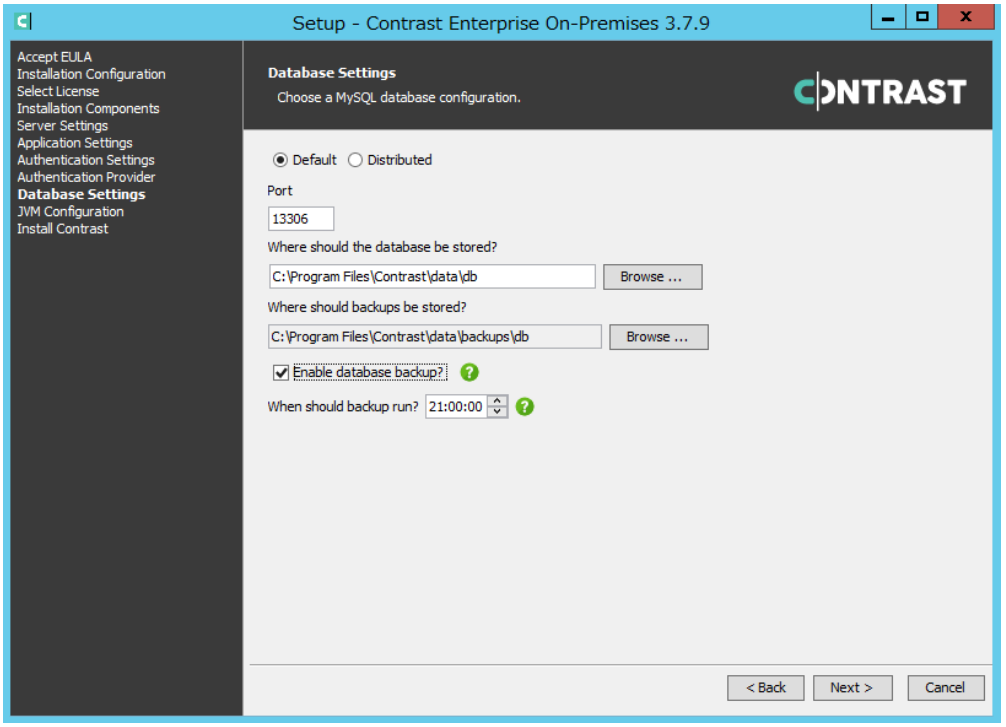
Where should the database be stored?
MySQLデータベースを保存するディレクトリ を指定します。本書では、デフォルトの値を使用します。

Where should be backups be stored?
MySQLデータベースのバックアップディレクトリを指定します。本書では、デフォルトの値を使用します。

Enable database backup?
MySQLデータベースの自動バックアップを有効にするオプションです。POCやデモなどで実際にバックアップの必要がない場合には、チェックボックスはオフのままで自動バックアップは無効にしておいても構いませんが、本書では、このオプションを有効にしておきます。

When should backup run?
バックアップを実行する時間を指定します。本書では、デフォルト(21:00:00)をそのまま使用し、毎日21時にバックアップを実行します。

Next >ボタンをクリックします。



10. JVMを設定する画面が表示されます。

Choose a Java Virtual Machine:で以下のいずれかを指定します。
Embedded：Contrast EOPにバンドルされたJVMを使用する
Provide Your Own：既存のJVMを使用する
本書では、バンドルされたものを使用しますので、**Embedded**を選択したままにしておきます。

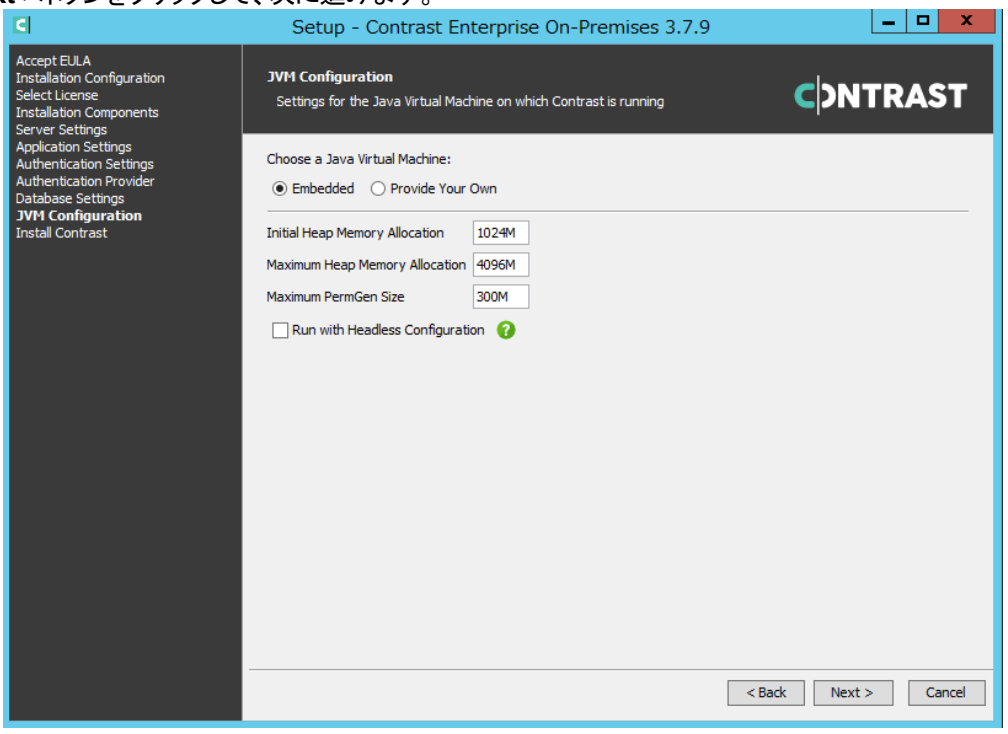
以下のJVMのプロパティを設定します：

- **Initial Heap Memory Allocation**：ヒープ領域の初期サイズ
- **Maximum Heap Memory Allocation**：ヒープ領域の最大サイズ
- **Maximum PermGen Size**：PermGen領域のサイズ

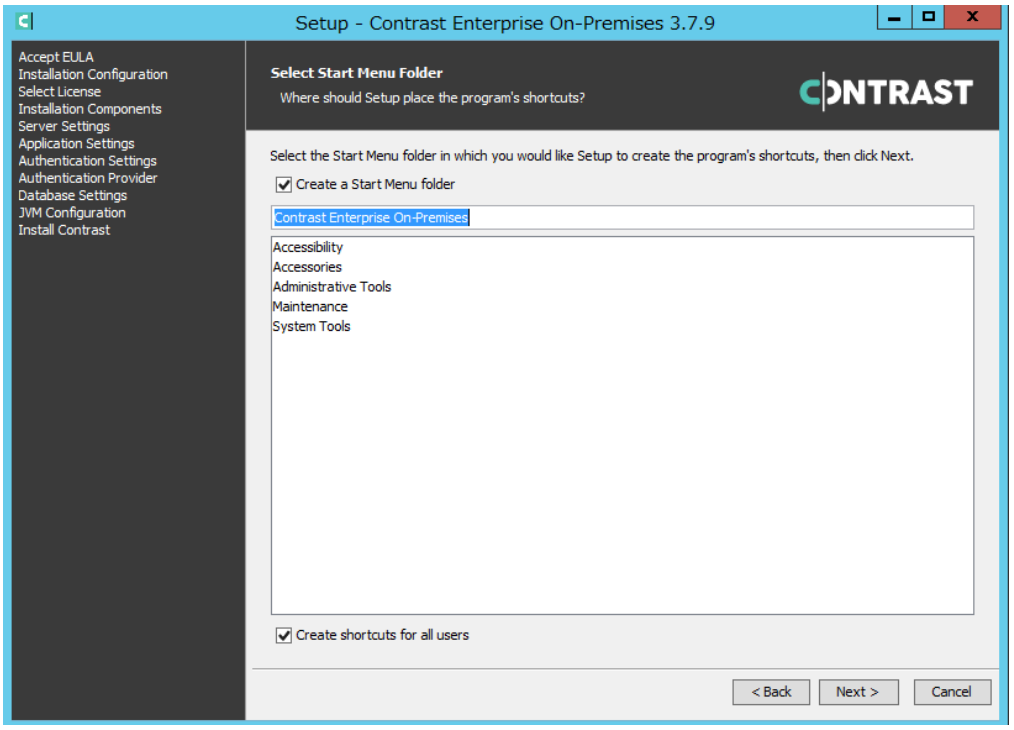
本書では、すべてデフォルトのままの値を使用しますが、必要に応じて値を変更してください。

Run with Headless Configuration
Javaをヘッドレスモードで実行するかを指定します。本書では、グラフィック環境のあるサーバ上でインストールをしていますので、このオプションは選択しません。

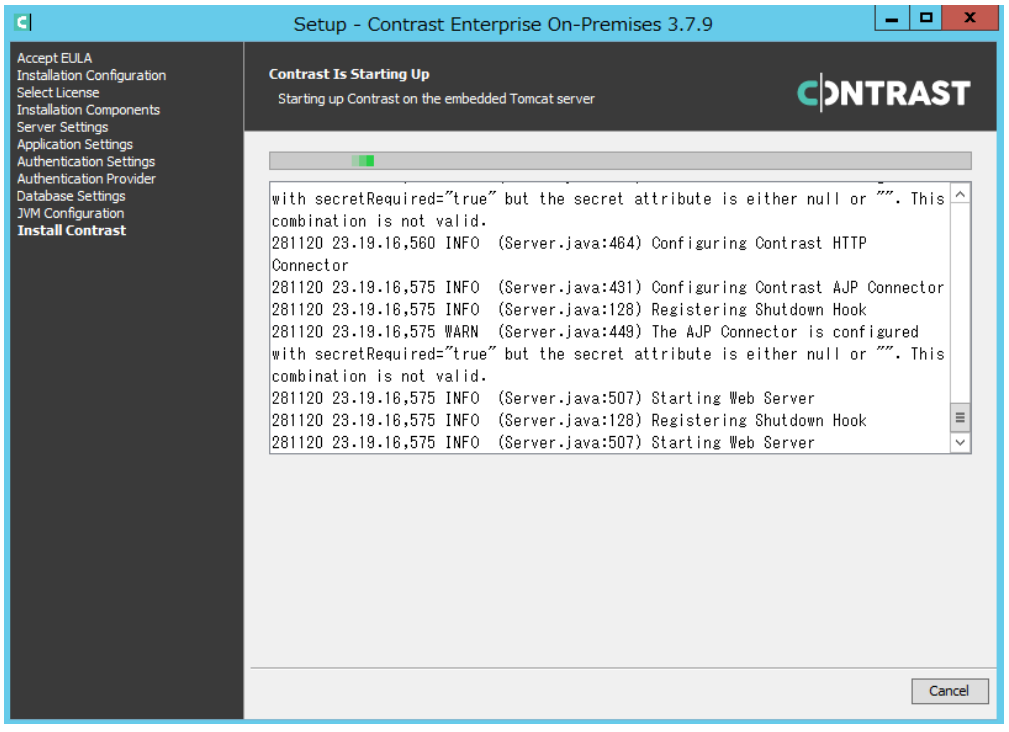
Next >ボタンをクリックして、次に進みます。



11. Windowsのスタートメニューに登録するフォルダについて指定します。本書では、そのまま**Next >** ボタンをクリックします。



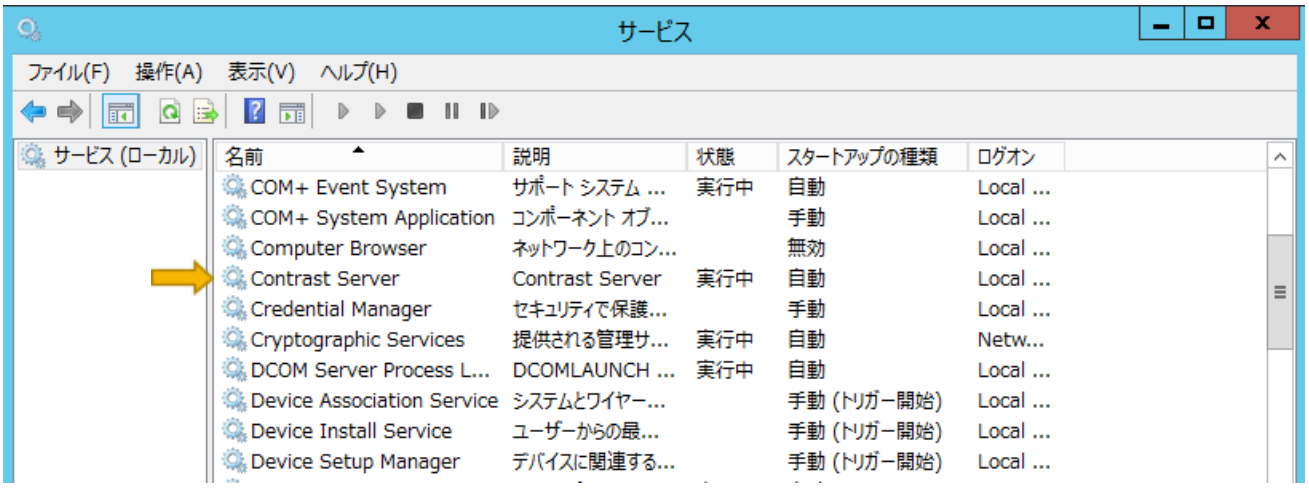
12. 関連するファイルの抽出が始まり、Contrast EOPが起動されて、データベースが構築されます。



インストールの確認

サービスの参照

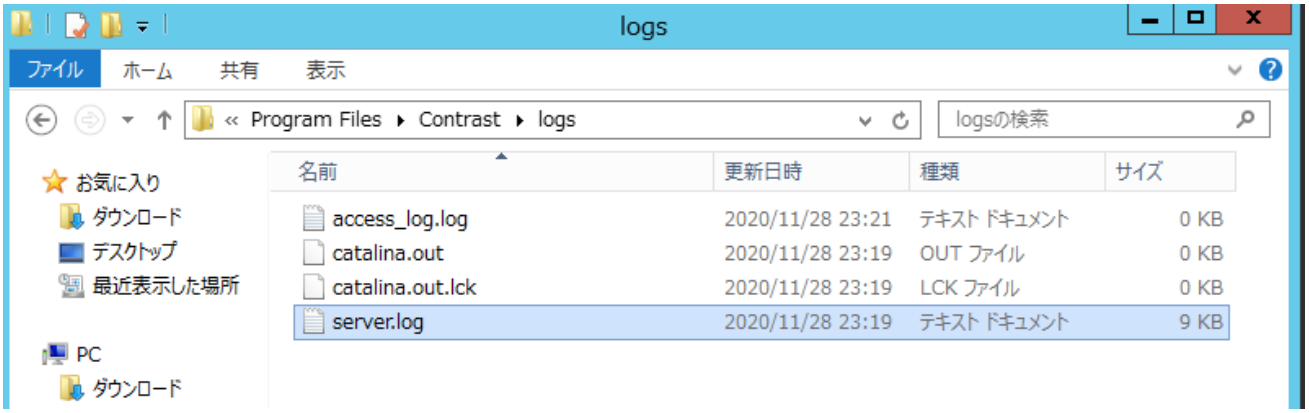
Contrast EOPは、フォルトでサービスて実行されます。Windows Server管理ツールのサースの画面にて、**Contrast Server**いうサービスが実中であることを確認ます。Contrast Serverの起動を手に変更したり、停止再起動を行うには、デとしのビと行し動やこの画面から実行できます。



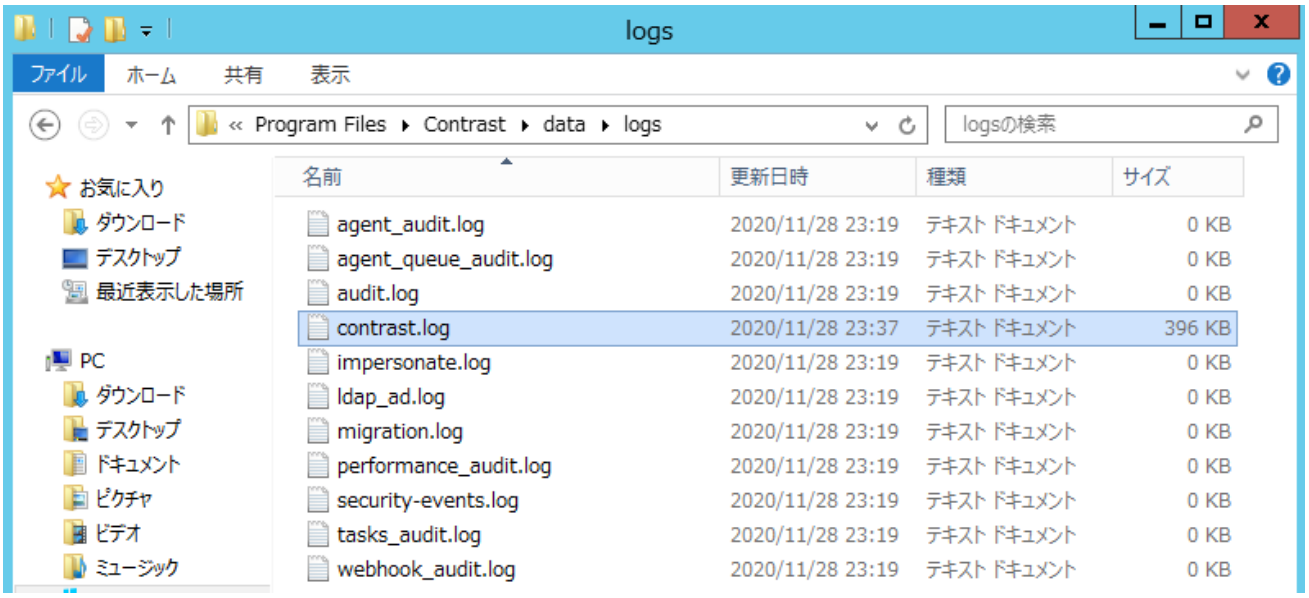
Contrast EOPのログについて

Contrast EOPからのログは、いくつかのディレクトリ にあります。

ログのルートディレクトリ(*$CONTRAST_HOME/logs*)には、Tomcatの**catalina.out**ファイルと一緒にアクセスログファイルなどがあります。**server.log**という名前のログファイルには、Contrast EOP内で発生している情報は含まれませんが、Contrast EOPの起動とシャットダウンが記録されますので、Contrast EOPの起動時や停止時の状況を把握するために参照できます。

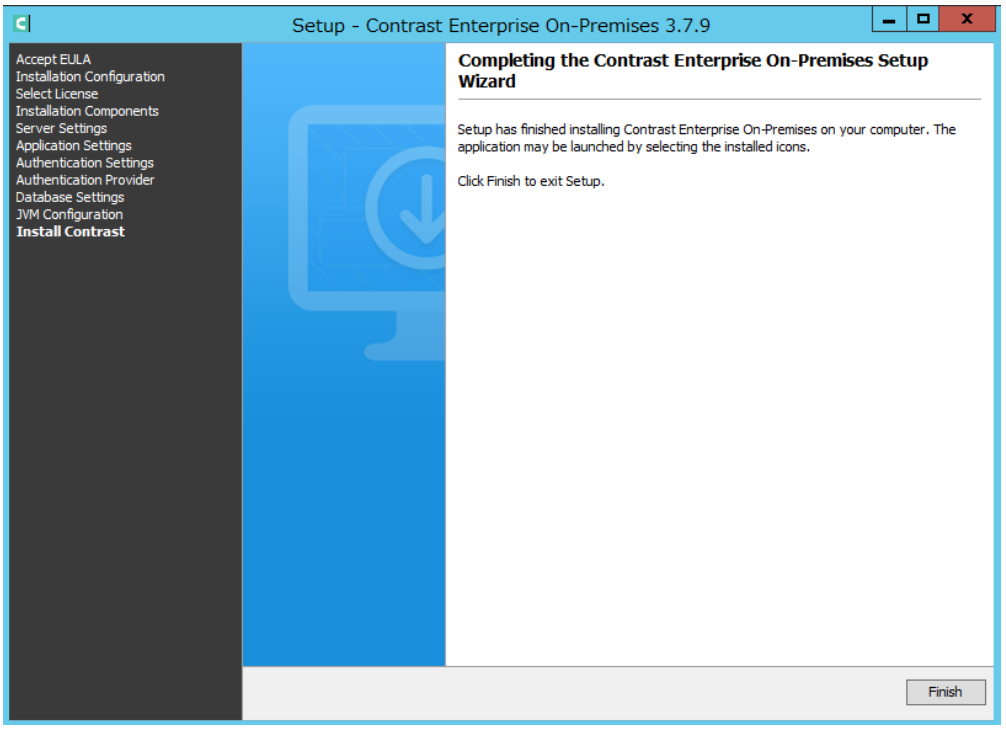


データログのディレクトリ (*$CONTRAST_HOME/data/logs*)には、Contrast EOPの実行中のログが記録されます。ここにもログファイルがいくつかありますが、一番重要なファイルは、**contrast.log**です。このファイルは、メインとなるアプリケーションログで、Contrast EOP内で発生しているすべての情報が記録されますので、Contrast EOPでエラーが発生しているかを確認する場合には、最初にこちらのログを参照します。



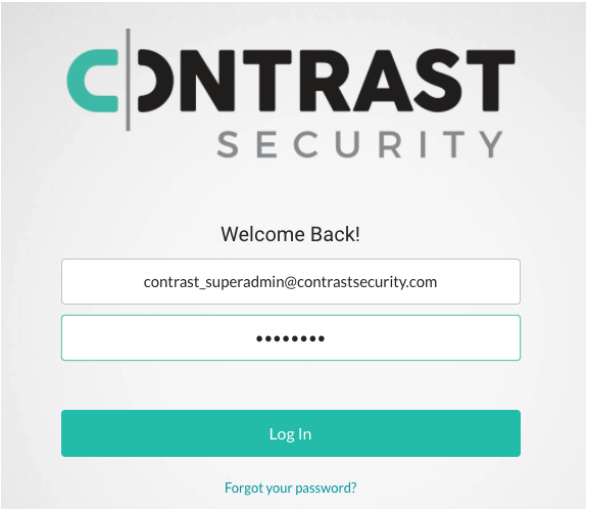
初回サービス起動時について

インストールの最後の工程でContrast EOPが起動されますが、インストール後の初めての起動であるために時間がかかります。これは、データベースの初期化などの初期設定が行われるためですが、インストール直後の初回の起動時のみです。しばらくすると、以下のようにインストール完了の画面が表示されます。



ブラウザからログイン

Contrast EOPのセットアップが完了し、サービスが実行中であることを確認できたら、ブラウザを起動してインストール中に指定したContrast EOPのURLにアクセスします。



ログイン画面が表示されたら、スーパー管理者でログインします。

デフォルトのスーパー管理者(SuperAdming)の認証情報は、以下の形式になります。ユーザ名の「会社のドメイン名」の部分は、Contrast Hubにログインした際に使用したアカウントのドメインになります。

- スーパ管理者のユーザ名：

contrast_superadmin@会社のドメイン名

- パスワード：

default1!

本書の例では、Contrast Hubにログインした際に使用したアカウントが、testuser@contrastsecurity.comですので、会社のドメイン部分はcontrastsecurity.comとなります。この場合、スーパ管理者の認証情報は、以下のようになります。

- スーパ管理者のユーザ名：contrast_superadmin@contrastsecurity.com
- パスワード：default1!

ログインすると、システム管理者用の画面が表示されます。

新規インストール直後のため、まだ何も設定されておりません。次のステップとして、ユーザの作成や組織の設定などContrast EOPでシステムを構成する必要があります。詳細は、「Contrast EOPクイックスタートガイド」を参照してください。

